

野村 稔教授・略歴

一 略歴・職歴

昭和19年 9 月 1 日	埼玉県川越市にて出生
昭和39年 4 月	早稲田大学第一法学部入学
昭和43年 3 月	早稲田大学第一法学部卒業
昭和43年 4 月	早稲田大学大学院法学研究科修士課程公法学専攻入学
昭和45年 3 月	早稲田大学大学院法学研究科修士課程公法学専攻修了（法学修士）
昭和46年 4 月	早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻入学
昭和48年 4 月	早稲田大学法学部助手〔～昭和51年 3 月〕
昭和51年 3 月	早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻単位取得満期退学
昭和51年 4 月	早稲田大学法学部専任講師（刑法）〔～昭和53年 3 月〕
昭和53年 4 月	早稲田大学法学部助教授（刑法・刑法各論）〔～昭和58年 3 月〕
昭和58年 3 月	早稲田大学長期在外研究（西ドイツ、フライブルク市のマックス・プランク外国・国際刑法研究所）〔～昭和60年 3 月〕
昭和58年 4 月	早稲田大学法学部教授（刑法・刑法各論・経済刑法担当）〔～平成15年 9 月〕
昭和60年 4 月	早稲田大学大学院法学研究科修士課程公法学専攻（刑法）担当〔～平成26年 3 月〕
昭和60年 9 月24日	法学博士（早稲田大学）
昭和62年 4 月	早稲田大学大学院法学研究科博士課程公法学専攻（刑法）担当〔現在に至る〕
平成 2 年 9 月	早稲田大学法学部教務担当教務主任〔～平成 6 年 9 月〕
平成 4 年 4 月	千葉大学法経学部非常勤講師〔～平成 6 年 3 月〕
平成 5 年 4 月	獨協大学法学部非常勤講師〔～平成20年 3 月〕
平成11年10月	早稲田大学比較法研究所所長〔～平成14年 9 月〕
平成14年 4 月	国士舘大学法学部非常勤講師〔～平成15年 3 月〕
平成16年 4 月	早稲田大学大学院法務研究科教授（法学部との併任）
平成16年 9 月	早稲田大学法文学術院教授（※機構改革による）〔現在に至る〕
平成18年 3 月	弁護士登録（第 2 東京弁護士会）〔現在に至る〕
平成26年 4 月	早稲田大学大学院法務研究科教授（法学部との併任解消）〔現在に至る〕

二 社会貢献活動など

昭和63年 6 月	第二東京弁護士会懲戒委員会委員 (第二東京弁護士会) [～平成18年 1 月]
平成 7 年 7 月	法学・政治学視学委員 (文部科学省) [～平成15年 3 月]
平成 8 年 4 月	判定委員会幹事 (大学基準協会) [～平成14年 3 月]
平成10年10月	本協会のあり方検討委員会小委員会委員 (大学基準協会) [～平成12年 6 月]
平成11年 7 月	判定委員会大学審査分科会 (第 3 群) 幹事 (大学基準協会) [～平成12年 3 月]
平成11年 3 月	本協会のあり方検討委員会小委員会本協会の大学評価システム検討分科会委員 (大学基準協会) [～平成12年 6 月]
平成12年 1 月	司法試験第二次試験考査委員 (刑法担当) (法務省) [～平成17年12月]
平成12年 6 月	本協会のあり方検討委員会小委員会委員 (大学基準協会) [～平成16年 3 月]
平成12年 6 月	本協会のあり方検討委員会小委員会評価組織体制・プロセス等検討分科会委員 (大学基準協会) [～平成16年 3 月]
平成12年 6 月	判定委員会大学審査分科会 (第 6 群) 幹事 (大学基準協会) [～平成13年 3 月]
平成13年 7 月	判定委員会大学審査分科会 (第 1 群) 幹事 (大学基準協会) [～平成14年 3 月]
平成13年 8 月	特別研究員等審査会専門委員 (日本学術振興会) [～平成15年 7 月]
平成14年 5 月	相互評価委員会大学評価分科会 (第 9 群) 委員 (大学基準協会) [～平成15年 3 月]
平成14年 5 月	相互評価委員会法学系第 2 専門評価分科会委員 (大学基準協会) [～平成15年 3 月]
平成15年 4 月	法科大学院適格認定検討委員会小委員会委員 (大学基準協会) [～平成17年 9 月]
平成16年10月	法制審議会臨時委員 (刑事法部会 (人身の自由関係部会)) [～平成17年 1 月]
平成18年 4 月	法科大学院試行評価委員会委員 (大学基準協会) [～平成19年 3 月]
平成20年 4 月	法科大学院評価委員会分科会委員 (大学基準協会) [～平成23年 3 月]
平成24年 4 月	佐倉市契約監視委員 [現在に至る]

野村 稔教授・主要業績目録

一 単著

- 『未遂犯の研究』(昭和59年8月)成文堂
『刑法総論講義案 中』(昭和62年10月)成文堂
『刑法総論』(平成2年5月)成文堂
『刑法総論(補訂版)』(平成10年9月)成文堂
『刑法総論』全理其=何力訳(平成13年3月)法律出版社(中国・北京市)
『経済刑法の論点』(平成14年4月)現代法律出版
『刑法演習教材』(平成16年11月)成文堂
『刑法演習教材(改訂版)』(平成19年11月)成文堂
『刑法と人生』(平成27年3月)成文堂

二 編著・共著

- 『現代法講義 刑法総論』野村稔編[5~34頁「刑法の基礎理論」、37~50頁「犯罪論総説(総説)」、87~95頁「構成要件」](平成5年4月)青林書院
『現代法講義 刑法総論(改訂版)』野村稔編(平成9年4月)青林書院
『現代法講義 刑法各論』野村稔編[5~8頁「序論」、233~249頁、「盗品等に関する罪」、239~245頁「毀棄及び隠匿の罪」、249頁「社会的法益に対する罪(総説)」、273~276頁「出水及び水利に関する罪」、287~295頁「往来を妨害する罪」、286~294頁「公衆の健康に対する罪」、367頁「国家的法益に対する罪(総説)」](平成10年5月)青林書院
『現代法講義 刑法各論(補正版)』[新規執筆部分:47~54頁「危険運転致死傷罪」、337~345頁「支払用カード電磁的記録に関する罪」]野村稔編(平成14年4月)青林書院
『注解 中華人民共和国新刑法』野村稔=張陵(平成14年3月)成文堂

三 分担執筆等

- 『刑法学 4《各論の重要問題Ⅰ》』西原春夫=藤木英雄=森下忠編[77~89頁「保護責任者遺棄罪」、90~101頁「ひき逃げの罪」、102~112頁「脅迫罪」](昭和52年12月)有斐閣
『刑法学 2《総論の重要問題Ⅱ》』西原春夫=藤木英雄=森下忠編[198~211頁「未必の故意」](昭和53年4月)有斐閣
『判例刑法研究 4 未遂・共犯・罪数』西原春夫=宮澤浩一=阿部純二=板倉宏=大谷實=芝原邦爾編[73~113頁「不能犯」](昭和56年2月)有斐閣
『刑法読本』内藤謙=内田文昭編[194~204頁「名誉・信用に対する罪」、298~304頁

「国家の存立に対する罪」(昭和56年11月)有斐閣

『刑法演習Ⅰ〔総論〕』岡野光雄編 [55～64頁「誤想過剰防衛」、179～189頁「不能犯」]
(昭和62年3月)成文堂

『刑法演習Ⅱ〔各論〕』岡野光雄編 [39～50頁「遺棄罪——ひき逃げと遺棄罪、殺人罪」、
51～59頁「名誉毀損罪——名誉毀損罪と事実証明」](昭和62年7月)成文堂

『大コンメンタール刑法 第2巻 [第35条～第44条]』大塚仁＝河上和雄＝佐藤文哉編
[895～979頁「未遂犯・中止犯」、980～988頁「未遂犯を罰する場合」](平成元年3月)
青林書院

『基本問題セミナー 刑法1 総論』阿部純二＝川端博編 [255～267頁「実行の着手」]
(平成4年5月)一粒社

『別冊法学セミナー141号] 基本法コンメンタール 改正刑法』阿部純二編 [123～126頁
「外患に関する罪」、170～172頁「住居を侵す罪」](平成7年10月)日本評論社

『新・判例コンメンタール 刑法3 総則 [3]』大塚仁＝川端博編 [1～24頁「第43条
(未遂減免)」(平成8年8月)三省堂

『新・判例コンメンタール 刑法6 罪 [3]』大塚仁＝川端博編 [193～222頁「第236条
(強盗)」、222～225頁「第237条(強盗予備)」、225～241頁「第238条(事後強盗)」、241
～242頁「第239条(昏酔強盗)」](平成10年4月)三省堂

『大コンメンタール刑法 第4巻 [43条～59条] (第2版)』大塚仁＝河上和雄＝佐藤文哉
＝古田佑紀編(平成11年5月)青林書院

『別冊法学セミナー161号] 基本法コンメンタール 改正刑法(第二版)』阿部純二編
(平成11年9月)日本評論社

『別冊法学セミナー176号] 基本法コンメンタール 改正刑法(第二版補訂版)』阿部純
二編(平成14年10月)日本評論社

『刑事法辞典』三井誠＝町野朔＝曾根威彦＝中森喜彦＝吉岡一男＝西田典之編 [54頁
「改定律例」、75頁「仮刑律」、123頁「旧刑法」、167頁「公事方御定書」、284頁「御成敗
式目」、351頁「実行の着手」、463頁「新律綱領」、529頁「大宝律令」、537頁「太政官布
告」、543頁「斷獄則例」、673頁「不応為律」、676頁「武家諸法度」、676頁「武家法」](平
成15年3月)信山社

『別冊法学セミナー192号] 基本法コンメンタール 刑法(第3版・2007年版)』阿部純
二編(平成19年5月)日本評論社

『大コンメンタール刑法 第4巻 [43条～59条] (第3版)』大塚仁＝河上和雄＝中山善房
＝古田佑紀編(平成25年10月)青林書院

四 論文等

「未遂犯の歴史的展開——一般的未遂概念成立史——」早稲田大学大学院法研論集8号
[155～187頁](昭和48年2月)早稲田大学大学院法学研究科

「明治維新以後の刑法制定史と未遂規定」早稲田法学会誌24巻 [77～126頁](昭和49年

3月) 早稲田大学法学会

「未遂の可罰性の基準——一般的考察——」早稲田法学会誌26巻 [31～59頁] (昭和51年3月) 早稲田大学法学会

「暴行・脅迫後に財物奪取の意思を生じた場合と強盗罪の成否」西原春夫＝野村稔〔共著〕判例タイムズ329号 [22～39頁] (昭和51年3月) 判例タイムズ社

「名誉毀損罪における事実の証明——違法阻却事由と処罰阻却事由との併存説——」早稲田法学53巻1＝2号 [105～174頁] (昭和53年3月) 早稲田大学法学会

「実行の着手——折衷説の検討を中心として——」中山研一＝西原春夫＝藤木英雄＝宮澤浩一編『現代刑法講座 第3巻 過失から罪数まで』[113～128頁] (昭和54年7月) 成文堂

「未遂・不能犯」Law School 23号 [36～47頁] (昭和55年8月) 立花書房

「不能犯における危険——具体的危険説の立場から——」Law School 39号 [25～35頁] (昭和56年12月) 立花書房

「未遂犯における違法性」刑法雑誌24巻3＝4号 [432～472頁] (昭和57年2月) 日本刑法学会

「名誉の保護と報道」刑法雑誌28巻1号 [104～120頁] (昭和62年5月) 日本刑法学会

「実行の着手——行為の属性としての危険か結果としての危険か——」芝原邦爾編『別冊法学教室 刑法の基本判例』[52～55頁] (昭和63年4月) 有斐閣

「刑法総論—37—共謀共同正犯—上—」法学セミナー414号 [81～85頁] (平成元年6月) 日本評論社

「刑法総論—38—共謀共同正犯—下—」法学セミナー415号 [102～107頁] (平成元年7月) 日本評論社

「刑法規範の動態論——刑法規範の一つのデッサン」研修495号 [3～12頁] (平成元年9月) 法務総合研究所

「共謀共同正犯」芝原邦爾＝堀内捷三＝町野朔＝西田典之編『刑法理論の現代的展開 総論Ⅱ』[220～243頁] (平成2年12月) 日本評論社

「犯罪報道と名誉毀損」法学教室132号 [15頁] (平成3年9月) 有斐閣

「刑法105条と共犯関係」研修521号 [3～12頁] (平成3年11月) 法務総合研究所

「刑法各論—4—暴行罪・傷害罪—暴行罪と傷害罪との関係を中心にして」法学セミナー453号 [78～82頁] (平成4年9月) 日本評論社

「予備罪の従犯について」研修533号 [3～12頁] (平成4年11月) 法務総合研究所

「不能犯と事実の欠缺」阿部純二＝板倉宏＝内田文昭＝香川達夫＝川端博＝曾根威彦編『刑法基本講座 第4巻 未遂／共犯／罪数論』[3～20頁] (平成4年11月) 法学書院
「刑法における占有の意義」阿部純二＝板倉宏＝内田文昭＝香川達夫＝川端博＝曾根威彦編

『刑法基本講座 第5巻 財産犯論』[71～86頁] (平成5年10月) 法学書院

「事実の錯誤について——下村教授の錯誤論によせて——」下村康正先生古稀祝賀論文

集

『刑事法学の新動向 上巻』[85～102頁] (平成 7 年 6 月) 成文堂

「共犯と正当防衛」研修571号 [17～24頁] (平成 8 年 1 月) 法務総合研究所

「テレホンカードの通話可能度数の改ざんと有価証券変造」法学教室188号 [31～36頁] (平成 8 年 5 月) 有斐閣

「暴行罪・傷害罪——暴行罪と傷害罪との関係を中心として」芝原邦爾＝堀内捷三＝町野朔＝西田典之編『刑法理論の現代的展開 各論』[33～43頁] (平成 8 年 6 月) 日本評論社

「日本における弁護士の依頼人に対する任務違背行為に対する制裁システムとその現状」東亜法学21号 [419～430頁] (平成 8 年12月) 東亜大學校法學研究所 (韓国・釜山市)

「実行着手後における心神喪失・耗弱——責任能力による同時的コントロールの必要性」研修587号 [3～10頁] (平成 9 年 5 月) 法務総合研究所

「西原教授の犯罪論体系について」『西原春夫先生古稀祝賀論文集 第一巻』[469～493頁] (平成10年 3 月) 成文堂

「経済刑法の論点 (1) インサイダー取引の刑事責任」現代刑事法 1 巻 1 号 [108～119頁] (平成11年 5 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (2) 相場操縦罪」現代刑事法 1 巻 2 号 [104～112頁] (平成11年 6 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (3) 損失補てん罪」現代刑事法 1 巻 3 号 [111～118頁] (平成11年 7 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (4) 利益供与罪」現代刑事法 1 巻 4 号 [92～102頁] (平成11年 8 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (5) 特別背任罪」現代刑事法 1 巻 6 号 [103～112頁] (平成11年10 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (6) ネズミ講」現代刑事法 1 巻 7 号 [120～127頁] (平成11年11月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (7) 独占禁止法の罰則 (その 1)」現代刑事法 2 巻 3 号 [105～110頁] (平成12年 3 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (8) 独占禁止法の罰則 (その 2)」現代刑事法 2 巻 4 号 [115～120頁] (平成12年 4 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (9) 独占禁止法の罰則 (その 3・完)」現代刑事法 2 巻 5 号 [120～127頁] (平成12年 5 月) 現代法律出版

「経済刑法の論点 (10) 出資法上の罪」現代刑事法 2 巻 6 号 [112～121頁] (平成12年 6 月) 現代法律出版

「未遂犯の処罰根拠」現代刑事法 2 巻 9 号 [29～35頁] (平成12年 9 月) 現代法律出版

「弁護士法72条違反罪の共犯について」研修628号 [3～10頁] (平成12年10月) 法務総合研究所

- 「経済刑法の論点 (11) 非弁提携の規制について」現代刑事法 2 巻10号 [102～112頁] (平成12年10月) 現代法律出版
- 「経済刑法の論点 (12) 租税違脱犯について」現代刑事法 2 巻11号 [107～116頁] (平成12年11月) 現代法律出版
- 「緊急避難」西田典之＝山口厚編『法律学の争点シリーズ 刑法の争点 (第3版)』[52～53頁] (平成12年11月) 有斐閣
- 「談合罪における『公正な価格』の意義」西田典之＝山口厚編『法律学の争点シリーズ 刑法の争点 (第3版)』[244～245頁] (平成12年11月) 有斐閣
- 「経済刑法の論点 (13) カード犯罪について」現代刑事法 2 巻12号 [95～106頁] (平成12年11月) 現代法律出版
- 「経済刑法の論点 (14) 両罰規定について」現代刑事法 3 巻2号 [110～116頁] (平成13年2月) 現代法律出版
- 「経済刑法の論点 (15・完) 経済刑法と犯罪論」現代刑事法 3 巻4号 [115～120頁] (平成13年4月) 現代法律出版
- 「国際人権 B 規約第六条と日本および中国の死刑」佐藤司先生古稀祝賀論文集『日本刑事法の理論と展望 上巻』[571～590頁] (平成14年8月) 信山社
- 「粉飾決算と刑事責任——旧日本長期信用銀行粉飾決算事件第一審判決によせて——」早稲田法学78巻3号 [209～234頁] (平成15年5月) 早稲田大学法学会
- 「被告人による偽証教唆の可罰性」現代刑事法 5 巻10号 [37～43頁] (平成15年10月) 現代法律出版
- 「資産査定基準と罪刑法定主義——旧長期信用銀行粉飾決算事件：東京地裁平成14年9月10日判決を契機として——」現代刑事法 6 巻2号 [59～64頁] (平成16年2月) 現代法律出版
- 「企業と市場に係る刑事法制の研究」野村稔＝曾根威彦＝田口守一 [共著] 企業と法創造 1 巻1号 [42～43頁] (平成16年4月) 早稲田大学21世紀 COE《企業法制と法創造》総合研究所
- 「刑法からみた独占禁止法改正問題」企業と法創造 1 巻1号 [140～146頁] (平成16年4月) 早稲田大学21世紀 COE《企業法制と法創造》総合研究所
- 「経済刑法からみた独禁法改正問題——犯則調査権限の導入・罰則規定の見直しを中心として——」現代刑事法 6 巻6号 [58～70頁] (平成16年6月) 現代法律出版
- 「独禁法の行政調査手続と刑事手続の関係」研修672号 [3～12頁] (平成16年6月) 法務総合研究所
- 「遺棄罪の立法過程について——危険犯としての純化の過程——」早稲田大学比較法研究所編『日本法のアイデンティティに関する総合的・比較法的研究——源流の法とグローバル化の法——』[5～26頁] (平成18年3月) 早稲田大学比較法研究所
- 「長銀粉飾決算事件控訴審判決の検討——資産査定通達等と罪刑法定主義 (再論)」研修695号 [3～10頁] (平成18年5月) 法務総合研究所

「外国為替証拠金取引の規制について——先物取引に関する犯罪——」『神山敏雄先生古稀祝賀論文集 第2巻 経済刑法』[197～221頁] (平成18年8月) 成文堂

「医師の異状死体等の届出義務——判例を中心として——」判例タイムズ1238号 [4～8頁] (平成19年7月) 判例タイムズ社

「緊急避難」西田典之＝山口厚＝佐伯仁志編『新・法律学の争点シリーズ 刑法の争点』[50～51頁] (平成19年10月) 有斐閣

「刑事罰と団体」早稲田大学大学院法学研究科大学院教育改革支援プログラム実施委員会編

『法学研究の基礎——団体と法』[89～115頁] (平成21年3月) 早稲田大学大学院法学研究科

五 判例評釈・演習等

「摘示事実の主要な部分の真実性が立証された場合と名誉毀損・業務妨害罪の成否」判例タイムズ322号 [116～120頁] (昭和50年8月) 判例タイムズ社

「防衛の意思と攻撃の意思とが併存している場合と刑法36条の防衛行為」判例タイムズ334号 [94～100頁] (昭和51年7月) 判例タイムズ社

「承継的共犯」平野龍一編『[別冊ジュリスト57号] 刑法判例百選Ⅰ 総論』[182～183頁] (昭和53年2月) 有斐閣

「逃走中の暴行と強盗致死傷」平野龍一編『[別冊ジュリスト58号] 刑法判例百選Ⅱ 各論』[162～163頁] (昭和53年4月) 有斐閣

「打撃の錯誤と強盗殺人未遂罪の成立」判例タイムズ371号 [39～42頁] (昭和54年1月) 判例タイムズ社

「大須事件上告審決定——(1) 騒擾罪の成立に必要な共同意思の内容 (2) 刑法106条2号の率先助勢の罪が成立する時期」Law School 2巻3号 [117～120頁] (昭和54年3月) 立花書房

「サウナ風呂の開発・製作の担当者と業務上失火罪」『[ジュリスト臨時増刊718号] 昭和54年度重要判例解説』[198～199頁] (昭和55年8月) 有斐閣

「月刊ペン事件」『[ジュリスト臨時増刊768号] 昭和56年度重要判例解説』[165～167頁] (昭和57年6月) 有斐閣

「承継的共犯」平野龍一＝松尾浩也編『[別冊ジュリスト82号] 刑法判例百選Ⅰ 総論(第二版)』[168～169頁] (昭和59年3月) 有斐閣

「逃走中の暴行と強盗致死傷」平野龍一＝松尾浩也編『[別冊ジュリスト83号] 刑法判例百選Ⅱ 各論(第二版)』[82～83頁] (昭和59年4月) 有斐閣

「演習」法学教室61号 [172～173頁] (昭和60年10月) 有斐閣

「演習」法学教室63号 [100頁] (昭和60年12月) 有斐閣

「演習」法学教室65号 [88頁] (昭和61年2月) 有斐閣

「演習」法学教室67号 [123頁] (昭和61年4月) 有斐閣

- 「演習」法学教室69号 [105頁] (昭和61年6月) 有斐閣
- 「演習」法学教室71号 [136頁] (昭和61年8月) 有斐閣
- 「公文書の改ざんコピーの作成と偽・変造罪の成否」法学教室74号 [128頁] (昭和61年11月) 有斐閣
- 「演習」法学教室74号 [141頁] (昭和61年11月) 有斐閣
- 「演習」法学教室77号 [91頁] (昭和62年2月) 有斐閣
- 「公文書の改ざんコピーの作成と偽・変造罪の成否」『[法学教室77号別冊付録] 判例セレクト'86』[34頁] (昭和62年2月) 有斐閣
- 「複数の建造物の現住建造物性」『[ジュリスト臨時増刊935号] 昭和63年度重要判例解説』[149～151頁] (平成元年6月) 有斐閣
- 「共犯関係からの離脱」『[法学教室113号別冊付録] 判例セレクト'89』[33頁] (平成2年2月) 有斐閣
- 「間接正犯の実行の着手時期」平野龍一＝松尾浩也＝芝原邦爾編『[別冊ジュリスト111号] 刑法判例百選Ⅰ 総論(第三版)』[136～137頁] (平成3年4月) 有斐閣
- 「刑法重点ゼミ——野村稔先生に聞く」受験新報42巻1号 [79～111頁] (平成4年1月) 中央大学真法会
- 「不法原因給付にかかる物件の横領」平野龍一＝松尾浩也＝芝原邦爾編『[別冊ジュリスト117号] 刑法判例百選Ⅱ 各論(第三版)』[104～105頁] (平成4年4月) 有斐閣
- 「共同正犯と正当防衛の成否の判断方法」法学教室177号 [72～73頁] (平成7年6月) 有斐閣
- 「演習」法学教室199号 [155頁] (平成9年4月) 有斐閣
- 「間接正犯の実行の着手時期」松尾浩也＝芝原邦爾＝西田典之編『[別冊ジュリスト142号] 刑法判例百選Ⅰ 総論(第四版)』[132～133頁] (平成9年4月) 有斐閣
- 「演習」法学教室200号 [153頁] (平成9年5月) 有斐閣
- 「不法原因給付にかかる物件の横領」松尾浩也＝芝原邦爾＝西田典之編『[別冊ジュリスト143号] 刑法判例百選Ⅱ 各論(第四版)』[106～107頁] (平成9年5月) 有斐閣
- 「演習」法学教室201号 [128頁] (平成9年6月) 有斐閣
- 「演習」法学教室202号 [130頁] (平成9年7月) 有斐閣
- 「演習」法学教室203号 [114頁] (平成9年8月) 有斐閣
- 「演習」法学教室204号 [146頁] (平成9年9月) 有斐閣
- 「演習」法学教室205号 [122頁] (平成9年10月) 有斐閣
- 「演習」法学教室206号 [112頁] (平成9年11月) 有斐閣
- 「演習」法学教室207号 [110頁] (平成9年12月) 有斐閣
- 「演習」法学教室208号 [116頁] (平成10年1月) 有斐閣
- 「演習」法学教室209号 [108頁] (平成10年2月) 有斐閣
- 「演習」法学教室210号 [78頁] (平成10年3月) 有斐閣
- 「演習」法学教室211号 [154頁] (平成10年4月) 有斐閣

- 「演習」法学教室212号 [136頁] (平成10年 5 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室213号 [132頁] (平成10年 6 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室214号 [118頁] (平成10年 7 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室215号 [118頁] (平成10年 8 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室216号 [110頁] (平成10年 9 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室217号 [128頁] (平成10年10月) 有斐閣
- 「演習」法学教室218号 [144頁] (平成10年11月) 有斐閣
- 「演習」法学教室219号 [136頁] (平成10年12月) 有斐閣
- 「演習」法学教室220号 [138頁] (平成11年 1 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室221号 [132頁] (平成11年 2 月) 有斐閣
- 「演習」法学教室222号 [104頁] (平成11年 3 月) 有斐閣
- 「営利の目的で業として覚せい剤等を譲渡したとして麻薬特例法 8 条の罪が成立するとされた事例 (①、②事件)」判例評論475号 [61～64頁] (平成10年 9 月) 判例時報社
- 「禁制品輸入罪における実行の着手」『[ジュリスト臨時増刊1179号] 平成11年度重要判例解説』[148～149頁] (平成12年 6 月) 有斐閣
- 「重加算税と刑罰との併科と憲法39条ほか」佐々木史朗編『判例経済刑法大系 第 2 巻 経済法関連』[290～297頁] (平成13年 2 月) 日本評論社
- 「虚偽不申告租税通脱犯における事前の所得秘匿工作の作出に加功した者と共同正犯の成否」佐々木史朗編『判例経済刑法大系 第 2 巻 経済法関連』[333～339頁] (平成13年 2 月) 日本評論社
- 「覚せい剤取締法41条の覚せい剤輸入罪の既遂時期」現代刑事法 5 巻 1 号 [54～58頁] (平成15年 1 月) 現代法律出版
- 「自招危難」芝原邦爾＝西田典之＝山口厚編『[別冊ジュリスト166号] 刑法判例百選 I 総論 (第五版)』[60～61頁] (平成15年 4 月) 有斐閣
- 「権利の実行と恐喝罪」芝原邦爾＝西田典之＝山口厚編『[別冊ジュリスト167号] 刑法判例百選 II 各論 (第五版)』[110～111頁] (平成15年 4 月) 有斐閣
- 「国立大学医学部教授収賄事件」永井憲一＝中村睦男編『大学と法——高等教育50判例の検討を通して——』[266～275頁] (平成16年 1 月) 大学基準協会
- 「消費者金融会社の係員を欺いてローンカードを交付させた上これを利用して同社の現金自動入出機から現金を引き出した場合の罪責」判例評論539号 [44～47頁] (平成16年 1 月) 判例時報社
- 「【1】他人の不動産を受託占有する者が抵当権設定後にこれを売却する行為と横領罪の成否 【2】売却行為のみが横領罪として起訴されたときの審理方法」現代刑事法 6 巻 7 号 [75～80頁] (平成16年 7 月) 現代法律出版
- 「クレジットカードの名義人に成り済まし同カードを利用して商品を購入する行為と詐欺罪の成否」現代刑事法 6 巻12号 [79～84頁] (平成16年12月) 現代法律出版
- 「【1】小型船籍の船舶及び総トン数の測度に関する政令 (平成13年政令第383号による

改正前のもの) 8条の2の船籍簿と刑法157条1項にいう『権利若しくは義務に関する公正証書の原本』【2】小型船舶の船籍及び総トン数の測度に関する政令(平成13年政令第383号による改正前のもの) 4条1項に基づく船籍票の内容虚偽の書換申請と刑法157条1項にいう『虚偽の申立て』判例評論572号 [53~56頁] (平成18年10月) 判例時報社

「自招危難」西田典之=山口厚=佐伯仁志編『別冊ジュリスト189号』刑法判例百選Ⅰ総論(第6版) [64~65頁] (平成20年2月) 有斐閣

「株式会社日本長期信用銀行の平成一〇年三月期に係る有価証券報告書の提出及び配当に関する決算処理につき、これまで『公正ナル会計慣行』として行われていた税法基準の考え方によったことが違法とはいえないとして、同銀行の頭取らに対する虚偽記載有価証券報告書提出罪及び違法配当罪の成立が否定された事例」判例評論607号 [22~26頁] (平成21年9月) 判例時報社

六 翻訳等

ユルゲン・パウマン編『西独刑法改正論争——刑法改正は失敗か——』西原春夫=宮澤浩一監訳 [247~259頁]「ウルリッヒ・クルーク『平和に対する罪(Friedensverrat)の新刑罰構成要件』」(昭和56年1月) 成文堂

アルビン・エーザー「ドイツ刑法の変遷における生命の保護——比較法史における生命の『神聖性』と『質』について——」野村稔=関哲夫[共訳] 比較法学21巻2号 [179~200頁] (昭和63年1月) 早稲田大学比較法研究所

クラウス・ティーデマン『ドイツおよびECにおける経済犯罪と経済刑法』西原春夫=宮澤浩一監訳 [1~16頁「経済刑法の概念と歴史的発展」、17~24頁「経済刑法の理論体系的・刑事政策的な主要原理」、26~32頁「経済刑法総論の特色」] (平成2年11月) 成文堂

「〔資料〕中華人民共和国新刑法(1997年)について」野村稔=張凌[共訳] 比較法学32巻2号 [189~315頁] (平成11年1月) 早稲田大学比較法研究所

「中国刑事訴訟法の司法解釈」野村稔=張凌[共訳] 比較法学34巻2号 [183~248頁] (平成13年1月) 早稲田大学比較法研究所

イエシエック=ヴァイグンド『ドイツ刑法総論 第5版』西原春夫監訳 [19~24頁「刑事政策の諸原則」、25~32頁「刑事学」] (平成11年4月) 成文堂

何秉松「組織犯罪集団の概念および特徴(1)」野村稔=張凌[共訳] 比較法学37巻1号 [251~277頁] (平成15年7月) 早稲田大学比較法研究所 何秉松「組織犯罪集団の概念および特徴(2)」野村稔=張凌[共訳] 比較法学37巻2号 [313~335頁] (平成16年1月) 早稲田大学比較法研究所

七 その他

共同研究

『日本刑法草案会議筆記 第Ⅰ分冊』早稲田大学鶴田文書研究会（昭和51年12月）早稲田大学出版部

『〈日本刑法草案会議筆記別冊〉刑法編集日誌 日本帝国刑法草案』早稲田大学鶴田文書研究会（昭和51年12月）早稲田大学出版部

『日本刑法草案会議筆記 第Ⅱ分冊』早稲田大学鶴田文書研究会（昭和52年1月）早稲田大学出版部

『日本刑法草案会議筆記 第Ⅲ分冊』早稲田大学鶴田文書研究会（昭和52年2月）早稲田大学出版部

『日本刑法草案会議筆記 第Ⅳ分冊』早稲田大学鶴田文書研究会（昭和52年3月）早稲田大学出版部

書 評

「〔現代刑事法学の視点〕大沼邦弘『未遂犯の成立範囲の画定』」（団藤重光博士古稀祝賀論文集第3巻（昭和59年）74頁）」法律時報59巻6号〔137～142頁〕（昭和62年5月）日本評論社

「〔Book Shelf〕中森喜彦『刑法各論』（有斐閣、1991年11月）」法学教室142号〔52頁〕（平成4年7月）有斐閣

意見書・報告等

「『脳死および臓器移植についての中間報告』に関する早稲田大学法学部教授の意見」牛山積＝浦川道太郎＝鎌田薫＝黒木三郎＝須々木圭一＝曾根威彦＝田山輝明＝野村稔＝石川正興＝木村利人〔共著〕早稲田法学63巻2号〔217～219頁〕（昭和63年4月）早稲田大学法学会

「〔特集 共謀共同正犯理論の総合的研究〕はじめに」刑法雑誌31巻3号〔275～282頁〕（平成3年1月）日本刑法学会

「〔日本刑法学会第68回大会ワークショップ〕未遂犯」刑法雑誌31巻3号〔375～379頁〕（平成3年1月）日本刑法学会

「〔日本刑法学会第71回大会ワークショップ〕放火罪」刑法雑誌34巻1号〔134頁～141頁〕（平成7年3月）日本刑法学会

公益活動

「大学評価の展望」丹保憲仁＝大南正瑛編『大学評価を読む』〔77～82頁〕（平成13年12月）大学基準協会

「大学評価における評価の視点」大学評価研究2号〔102～105頁〕（平成14年3月）大学

基準協会

「上海における出会い」交流簡報139号〔3～4頁〕（平成5年5月）日中人文社会科学交流協会

「第4回日中刑事法学術討論会報告」ジュリスト1078号〔64～70頁〕（平成7年11月）有斐閣

随筆等

「人との出会い——マックス・プランク研究所——」法学部報2号〔7～8頁〕（昭和59年4月）早稲田大学法学部

「故人との縁」追想の阿部義任刊行会編『追想の阿部義任』〔223～226頁〕（昭和60年7月）成文堂

「《座談会》博士論文を執筆して——野村稔先生（刑法）に聞く——」季刊法研フォーラム2号〔2～7頁〕（昭和61年4月）法研自治会常任委員会

「『出て来い』の一言」早稲田大学大学院法学研究科西原研究室編『多样竹簡集』〔31～32頁〕（昭和63年4月）成文堂

「法学部のカリキュラム改革」早稲田学報復刊48巻4号〔30～31頁〕（平成6年5月）早稲田大学校友会

「刑法と人生」警察公論54巻1号〔16～19頁〕（平成11年1月）立花書房

「研究生生活の途上において」法学部報9号〔5～6頁〕（平成11年4月）早稲田大学法学部

「序文」早稲田大学比較法研究所編『日本法のアイデンティティに関する総合的・比較法的研究——源流の法とグローバル化の法——』〔1～2頁〕（平成18年3月）早稲田大学比較法研究所

「献呈の辞」早稲田法学84巻3号〔i～iii頁〕（平成21年3月）早稲田大学法学会

「献呈の辞」早稲田法学85巻3号（第1分冊）〔i～vii頁〕（平成22年3月）早稲田大学法学会